

# 東京経済大学報

2020年度 第53巻 第2号

陸上競技部・  
おおかわ あゆむ  
**大川歩夢選手**(経済)  
2年  
関東学生連合チーム  
メンバーとして  
**箱根駅伝**  
**6区を走破!**



## 2021年の新春を迎えて

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。皆様には平素より本学へのご支援・ご厚情を賜り、有り難く厚く御礼申し上げます。

昨年は年初より新型コロナウイルス感染症の世界的拡大・流行の影響を受け、本学も感染症の拡大を防ぐ観点より国分寺・武蔵村山キャンパスを閉鎖し、授業はウェブを中心とした展開となりました。4月当初は慣れない取り組みに学生および教職員の皆さんには大変なご努力・ご苦労を頂きました。9月の第2学期からは対面授業とウェブ授業との併用で、教室や図書館などキャンパス内に学生諸君の姿を見かけるようになり大変嬉しく感じています。早期に本来の元気で自由なキャンパスライフが取り戻せることを念じて止みません。

そのような最中であって、10月23日、本学は創立120周年を迎えることができました。120周年記念事業の中核である第2次キャンパス整備計画はマスタープランに基づき2020年度より基本計画の検討から基本設計・発注に至るプロセスに有りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1年間先送りとなりました。創立120周年記念特別展示「東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎」は10月3日から25日まで大倉集古館にて開催され、数多くの集客を得て無事終了となりました。また、『東京経済大学百二十年史』の編纂は「資料編第一巻」を11月に刊行するなど着々と取り組みが進んでいます。創立120周年記念シンポジウム「コロナ危機をバネに大転換」や本学図書館の講演会・展示も三密を避けながら無事開催することができました。創立120周年の記念日に合わせて計画された「新次郎池周辺整備」は10月27日に竣工式を迎えました。併せて故・向井武文先生のご親族からのご寄付により計画された新名称「向井坂」も歩きやすく綺麗に整備されました。学生、卒業生、地域の皆様にとって、ご縁を結ぶ、憩いの場となることを願っています。

### 木洩れ日に面影しのぶ向坂

以上の記念事業はこれまでご協力いただきました「東京経済大学創立120周年記念事業募金」の寄付金に依るところが大であり、各方面沢山の方々のご理解とご賛同につきまして深甚なる感謝を申し上げます。3月まで残されました募金の募集期間、なお一層のご協力を頂ければ幸いです。

2021年の新春を迎え、今年は「自律自戒」、自らの健康を守り、新型コロナウイルス感染症の閉塞感を打ち破り、「新中期計画」と「新構想」による本学の新たな出発点を是非とも築き上げたいと考えます。皆様方のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



学校法人東京経済大学  
理事長  
菅原 寛貴

## 新たな一年、出発に際して

皆様、あけましておめでとうございます。

1900年創設の大倉商業学校を淵源とする本学は、昨年10月23日に創立120周年を迎えました。コロナ禍のために、「創立120周年記念式典・祝賀会」は中止となりましたが、120周年を記念する各種セミナー・シンポジウム、展示会等はオンラインなどさまざまな工夫をこらしながら開催することができました。

また授業も、第1学期こそ感染症拡大を防ぐために全面オンラインで行わざるを得ませんでした。第2学期には少人数授業やゼミなどは一部対面で行うことができました。この第2学期の対面授業の経験を生かして、2021年度の授業は一部大規模講義を除いて原則対面で行う予定であり、今その準備をしているところです。

昨年4月に新構想策定委員会から私宛に「2020年を起点とした10年後を見据えた新構想」答申が提出されたことはすでに皆様に報告いたしましたが、現在その答申を受けて、新構想具現化検討委員会が、多文化共生作業部会、ゼミ・カリキュラム改革作業部会など、各作業部会を設けて、それぞれのテーマに即して、具体的な改革案を練っているところです。私はこれらの改革案を「学長新構想」として全学的観点からまとめ上げ、それに沿って本学の教学改革を進めていくつもりです。

なお、本誌の別稿にて、私は本学において「本学のSDGs宣言に向けて 一なぜ、いまSDGs宣言が必要なのか」を述べていますが、本年3月までには全学の構成員の声を十分に反映した「東京経済大学版SDGs宣言」と「東京経済大学SDGs行動憲章」を制定し、それをウェブサイト上に公開する予定です。

以上述べてきましたように、コロナ禍の逆境下においても本学が誇るアカデミズムの精神はさまざまなかたちで発露され、将来に向けた教学改革は滞ることなく進展しています。皆様方の一層のご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。



東京経済大学  
学長  
岡本 英男

# 本学のSDGs宣言に向けて

—なぜ、いまSDGs宣言が必要なのか—

学長 岡本 英男

SDGsとはSustainable Development Goalsの略語であり、ふつう「持続可能な開発目標」と訳される。2015年の国連総会で全加盟国が合意し、2030年までに経済・社会・環境の3側面において持続可能な世界の実現を目標としたものである。

夏休み前にエコキャンパス推進委員会から、東京経済大学SDGs宣言の準備にあたって学長メッセージを書いていただきたいという要請を受けたとき、私はSDGsの精神に全面的に賛成し、次のようなメッセージを書いた。

「東京経済大学は、2015年9月の国連総会にて採択された『私たちの世界を変革するー持続可能な開発のための2030アジェンダ』で掲げられた理念、すなわち『誰一人置き去りにすることなく、すべての人間が尊厳と平等の下に、そして健康な環境の下に、その持てる潜在能力を発揮することのできる社会を目指す』という理念

に深く共鳴し、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた教育・研究活動を推進してまいります」

私は日頃から学生たちに、単なる生活者や経済人ではなく、共同体に責任を持つ、共同体全体を考える政治的に成熟した市民を目指してほしい、と述べてきた。そして今日切実に必要とされているものは、利己主義ではなく利他主義であり、私たち自身が他者の立場や境遇に思いを至らせ、配慮できる人間になりうるかどうか、社会の存続にとって決定的重要性を持つ、と何度も言ってきた。実際には、共同体全体を考える政治的に成熟した市民になることも、利己主義ではなく利他主義的に振る舞うことも非常に難しい。私たちはどうしても「自分が第二」「わが社が第二」「わが国が第二」と考えがちである。しかしそのような私たちの考えや行動が、さまざまな紛争と格差、地球環境の悪化、気候変動問題を生んでいるのは

明らかであり、私たちの思考法や行動を「私たちの地球が第二」というかたちにシフトする時期に来ている。

その意味で、2015年の国連総会で全加盟国が合意し、私たちが2030年までに取り組むべき共通の課題として、あらゆる貧困と飢餓に終止符を打つこと、国内的・国際的な不平等と戦うこと、平和で公正かつ包摂的な社会をうち立てること、人権を保護しジェンダー平等と女性・女児のエンパワーメントを進めること、地球と天然資源の永続的な保護を確保すること、持続可能で、包摂的な経済成長を図ること、共有された繁栄および働きがいのある人間らしい仕事のための条件をつくり出すことを掲げたことは、画期的意義をもつ。市民の安寧のために各国政府が協調し合い、地球に宿る他の生命とバランスをとりつつ存続していく世界を私たち人類は目的意識的に追求し始めたと言つてよい。

SDGsを核とする国連決議「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のタイトルは「私たちの世界を変革する」となっており、このタイトルはSDGsが変革のために存在していることをはっきりと示している。

極度の貧困だけでなく、格差が要因となる各国内の貧困をなくすためには、社会の仕組みを変える必要がある。また、限りある資源と地球の容量のなかで、増大する世界人口を支えるには、現在の食糧生産の仕組みを変革しなければならぬ。さらには、エネルギー供給に関する仕組みの変革は、気象変動対策として不可欠である。このように、変革なしでは持続可能な世界を築き得ないのであるが、どのような形の変革が望ましいのかを考案するのが私たち大学をはじめとした研究機関の役割である、と私は思っている。

全地球倫理に基づいて持続可能な世界を築き上げるということは、「言うは易し行ふは難し」の典型例と思われるかもしれない。しかし「地球規模の連帯の精神」といかなる困難な課題であつてもひるむことなく挑戦する「進一層の精神」でもって、本学は、教育・研究機関としてSDGsの達成の一翼を担っていきたいと思っている。皆様にもぜひ協力をお願いしたい。



## 記念展示「東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎」の開催について

創立120周年記念事業の一環として、

東京経済大学は2020年10月3日(土)から25日(日)まで、大倉集古館(東京都港区虎ノ門)において記念展示をおこなった。

会場の大倉集古館は、築地本願寺や一橋大学兼松講堂などの設計で有名な伊東忠太による個性的な建築である。来館者には、A5判カラー版20頁のパンフレットが配布されるとともに、先着で東京経済大学の絵葉書も進呈された。

正面入り口から右手より第一部「大倉喜八郎、その生涯と業績」の展示。喜八郎が新潟を出てから商人として財産を築き、大倉財閥として多くの関連事業を起こしたことを物語るゆかりの品が展示された。経済人としての大倉喜八郎ばかりでなく、文化愛好家としての品々も展示され、人間としての喜八郎も偲ばれる展示であった。とくに注目される展示は、『心学先哲叢集』、『鶴乃とも』(共に東京

経済大学蔵)、伊藤博文揮毫の書額「開物成務」(大成建設蔵)、「張作霖からの弔旗」(大倉集古館蔵)、「教育立身画之三」(大倉喜八郎の豪胆)、『国文学研究資料館蔵』などである。

エレベーターで2階に上ると第二部「大倉商業学校から東京経済大学へ」記録と記憶でつづる「120年」の展示となる。大倉商業学校の創設にかかる資料をはじめとして、本学の原点を示す多くの貴重な資料が展示された。

今回の展示の特徴は、当時の学生(生徒)個人の記録や記憶と、展示資料とを組み合わせ、学校生活をより立体的に見せることを目指した点にある。たとえば、東京経

済大学の誕生の展示では、学生や卒業生

が、学校の復興と新制大学への昇格のために積極的に寄付をしたことを物語る「寄付金受領書」などの資料も展示されている。全体をとおして創立者大倉喜八郎の生い

立ちから本学の戦後の歩みと現在の状況までを余すところなく示し、大倉商業学校ばかりでなく、東京経済大学の原点を顧みるうえでも、大変意義深い展示会であった。

会期は23日間(開館は20日)であり、入館者合計は約1900名であった。特別解説会が大倉集古館のB1階ホールで会期中に2回にわたり開催された。第1回目は、「大倉喜八郎の商業学校創立への思いと創立をめぐって」(講師・村上勝彦、

東京経済大学名誉教授、公益財団法人大倉文化財団理事長)。第2回目は、『大倉

の夜学』と卒業生」(講師・米山高生、東京経済大学経営学部教授、図書館長)である。以降は特別解説会の概略をご紹介していた。

**特別解説会 第1回「10月10日(土)」**  
「大倉喜八郎の商業学校創立への思いと創立をめぐって」  
講師・村上 勝彦

大倉喜八郎が商業学校創立を志したのは、どのような思いからであったのか。建学の精神、本学の理念である「責任と信用」「進一層」に焦点を当てて考えてみたい。喜八郎の編纂した『心学先哲叢集』では、「本当の商売とは相手も立て、自分も立て、双方が利益を得ることだ」と説く。相手を騙して利を得る不正な商法で、短期的な利を求めるのではなく、責任と信用を基とする持続可能な商法を、喜八郎は長い経験を通じて強く心に刻んでいた。「責任と信用」はこのような現実への対応のうちから発せられたものである。

また喜八郎の2番目の著作『貿易意見書』の中では、日本商人は困難に屈しないでやり通す勇氣、「敢為勇心(かんゐゆうしん)の氣象」に



期間中配布されたパンフレットの表紙

### 4. 東京経済大学の誕生 (1946~1950年代)

#### 4-1. 国分寺への移転と新制大学への移行

1949(昭和24)年4月、新制大学として東京経済大学が誕生した。第一学部、第二学部(夜間)となり、それぞれ経済学科と商学科を設け、第二学部には修業年限1年の別科も付設された。翌年には短期大学部商経科第一部が、翌々年には同第二部も開設された。大学昇格後、次々と新しい施設が建設されていき、ようやく大学らしい雰囲気の中で教育が行われるようになった。



「復興資金と大学昇格基金への寄附金の受領証」  
1947(昭和22)年4月2日  
東京経済大学  
学校の復興と新制大学への昇格のため、卒業生も積極的に寄付に応じた。また、学生は夏休みにアルバイトなどで得た1人3000円を大学昇格基金として寄付し、その総額は102万円にのぼった。新設後も学生の熱意に応え、学生がアルバイトを行うために1948年度の夏季休暇を3か月間に延長した。

#### 4-2. 戦後の学生生活

国分寺キャンパスでの学生生活は、経済的には苦しかったが、自由な雰囲気の下で活気に満ちたものであった。女子学生も入学するようになり、学友会が再発足し、部活動も再開した。占領下の改革と民主化から東西冷戦下の「逆コース」へ、揺れ動く時代の中で、学生たちは社会的関心を深め、学内外でさまざまな活動を展開した。

学帽  
1950年代 東京経済大学蔵  
学生服  
年代不明 東京経済大学蔵



経済情報 教科書  
1950年代 東京経済大学蔵  
返還推進教員のガリ版刷りの教科書。

聖い(神聖)智子さんの死に哀悼と不屈の闘いを誓う  
1960(昭和35)年6月16日  
東京経済大学蔵  
1960年、新安保条約の批准に反対する運動が全国的に盛りあがった。本学では教授団・教職員組合・学生自治会・消費生活協同組合が連名で反対声明を発表し、教職員や学生がデモにくりだすなど、全学を挙げて抗議行動に取り組んだ。声明やピタには、戦後に得られた民主主義の原則を貫こうとする人々の意志が表現されている。

### 展示会パンフレットより (16頁)

東京経済大学の誕生では、新制大学への昇格のため、学生と卒業生が積極的に寄付に応じたことを物語る「寄付金受領書」などの資料も展示された。



乏しい、また「内外貿易の方法に暗い」と述べている。「敢為勇心の気象」とは、「順調に行けば行くほど、更にその機運に乗じて更に一歩進み、あくまで進むことが必要で、とくに難関にぶつかったり障害が現れたときには、あくまで勇往邁進<sup>ゆうおうまいしん</sup>、その障害を除いて難局を突破しなければならぬ」と述べた精神である。「内外貿易の方法」については、日本商人は国内に閉じこもりがちな「居商」だが、欧米商人のように海外に積極的に出ていく「出商」に変わるべきだと話している。

こうした考えの基は、12歳から18歳まで通った郷里新発田の私塾で育まれた。儒学一派である陽明学の「知行合一<sup>ちこうごういつ</sup>」という行動主義的な思想に親近感を抱き、陽明学の入門書『伝習録』をいつも手近に置き、その教えが自分の腹に一番収まると喜八郎は言っている。後に彼はこうした考えや行動を「進一層」と名付けた。

商業学校創立については、喜八郎が「商人の中には商業上の適当な教育を受ける者は少ない。自分が経験したような、商店での丁稚奉公から経験を積んでいくようなやり方では駄目で、商業学校で近代的商法を学ぶことが必要だ」と思い到ったことから始まる。彼は、「商業を進めるには、根本たる人間を造るのが最も必要だ。どこの国でも近來は商業教育が盛んになっている。商業教育を盛んにし、商売を発達させることが、今日最も必要なことだ」と思って学校創立を決意した」と述べ、幕末に結ばれた不平等条約の改正実施の

前年にあたる1898(明治31)年、学校創立の行動を始めた。そして1900年、大倉商業学校は創立、開校された。

**特別解説会 第2回「10月17日(土)『大倉の夜学』と卒業生」**  
講師…米山 高生

本講演の目的は、戦前の大倉の夜学が実業界にとつてどのような役割を果たしていたかを明らかにすることである。この目的を解明するために、残存する史料にもとづいて、大倉商業学校が設立されて大倉高等商業学校に昇格するまでの期間の、夜学卒業生の就職先(勤務先)を明らかにした。

大倉商業学校の「専修科」卒業生のうち、夜学専修科第1期から第16期卒業生に夜学高等科第1期卒業生を加えた561名について卒業生名簿が残っている。夜学の卒業生の勤務先としてこの名簿にもとづいて勤務先のデータベースを作成した。それによれば、上位から銀行100名、保険44名、商店40名、製造40名となっている。銀行、保険に証券と信託を加えた金融機関には146名が就職している。また商店に商社、流通、商業を加えると62名であり、金融と流通を合わせると208名が就職している。なお大倉商事は12名おり、商社の大半を占めていた。主要な勤務先であった銀行の内訳について、多い順にいえば、日本銀行(9)、日本勧業銀行(9)、三菱銀行(7)、十五銀行

(7)、田中銀行(7)、第一銀行(4)、丁酉銀行(4)、安田銀行(3)、住友銀行(2)、三井銀行(2)、横浜正金銀行(1)、日本興業銀行(1)であった。(括弧内は人数) このように大倉商業学校の創立以来、夜学の名声は高かった。夜学の名声は、大倉高等商業への昇格とともに再編された夜学においても受け継がれた。小宮山量平氏の自伝的小説『千曲川』理論社)においては、大倉の夜学は金融機関をはじめ大企業の「指定校」のようであったと書かれている。

## 展示風景



2階の展示室。



大倉喜八郎の葬儀時に張作霖から贈られた「弔旗」(大倉集古館蔵)の展示の様子。



1階の展示の様子。伊藤博文揮毫の書額と、大倉土木株式会社の半纏(ともに大成建設蔵)が展示された。



## 創立120周年記念事業

# 新次郎池周辺整備のめざしたもの

（創立120周年にあわせた竣工に寄せて）

国分寺キャンパス第2期整備計画検討委員会 緑と水作業部会  
尾崎寛直（経済学部教授）

なぜ新次郎池周辺整備  
なのか？  
― 50年ぶりの大事業 ―

本学創立120周年記念事業では、シンポジウムや出版等のソフト事業に加えて、国分寺キャンパスの大規模なリニューアルとなるハード事業が計画されている。

後者は、1960年代後半〜70年代にかけて造られた3つの棟の建替と、同じ頃に整備された「新次郎池」護岸とその周辺の散策道・階段の改修の2本立てになっており、いずれも50年ぶりの大事業である。

今回の事業は、都市部では希少な湧水によって育まれる新次郎池周りを中心として、本学国分寺キャンパス内を横断する「国分寺崖線」<sup>がいでせん</sup>（太古の多摩川に削られてできた河岸段丘であり、上の武蔵野面と下の立川面の高低差は20mに

およぶ）に沿って広がる緑地帯―2018年に本学としてこれを「東経の森」と名づけた―をほぼ全体として対象とする計画となっている（7頁図参照。なお、計画の詳細は、本学ホームページの右上にある「検索」欄から「新次郎池周辺整備竣工パンフレット(PDF)」を検索し、ダウンロードして参照されたい）。  
東京都心部から少し離れるとはいえず、東京の大動脈・中央線沿いの人気の高い住宅地にある本学キャンパスが、戦後、都心の赤坂葵町から国分寺の地に移転してきて70余年、いまだに広大な緑地帯と、キャンパス内に湧水が出て池を形成する環境を保全し続けていることは、現代の都市環境の中できわめて価値あることだといえる。



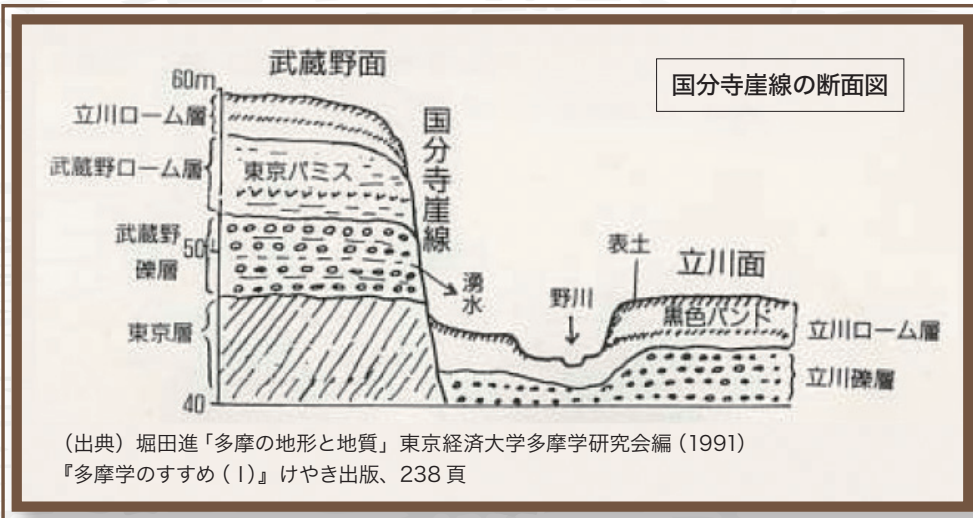
森のデッキ（展望パーゴラ）



整備後の新次郎池



東京郊外の山間部を購入した大学キャンパスならともかく、本学は四方を住宅地にびつしりと囲まれている都市区域であり、その中でキャンパス内の新次郎池周辺は、地元の住民にとっても「都市のオアシス」というべき憩いの場、あるいは自然観察の場としても親しま



れる地域の資源となっている。その意味で、新次郎池周りはとくに大学と地域を結ぶ「縁結び」のゾーンとして位置づけた。

翻って学内の者にとってみると、もともと新次郎池は、本学正門からというよりは崖線下にある比較的マイナーな「南門」(府中方面)から近く、普段この門を利用する人々には馴染みの風景であったが、それ以外の人々にとっては、残念ながら縁遠い場所だったに違いない。最近の学生たちには「新次郎池の場所はどこでしょう?」というようなクイズを出さねばならないほど、なかなか訪問してもらえない場所ではなかったのが実際のところである。

それと同時に、南門から校舎に至る3本のルートはいずれもきわめて老朽化しており、歩幅が合わずしかもコンクリートの一部が崩れかけていた階段しかり、散策路には舗装をしていないところも多く、雨の後は水が溜まり、足元は土汚れを避けられない状況であったことなども、多くの学生を遠ざける要因になっていたと思われる。今回の事業では、自然の景観や生態系を損ねない範囲で、最新の

造園技術を駆使して、「景色を見ながら歩く楽しさ」と「安全性」の追求、「自然とふれあえるスポットの創出」にとくに腐心するとともに、新次郎池そのものの「持続可能性」という課題にも挑戦したのである。

### 本事業に至る〈前史〉

じつは、この事業の着想に至る前段の取り組みとして、2012年から始めた「TKU森と水プロジェクト」があった。本学崖線部の緑地帯は長い間、ほとんど手つかずの状態で保護されてきた経緯が



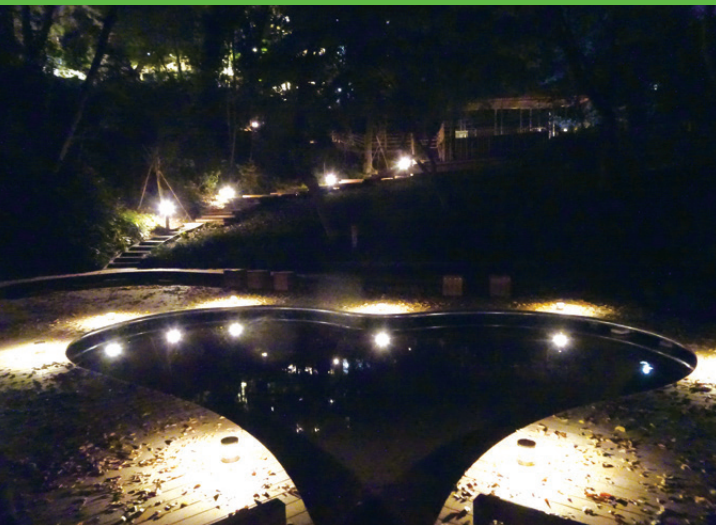
向井坂

あり、その結果シユロなどの強力な外来種が「我が物顔」で繁茂する森となっていたのである。また、新次郎池の湧水も徐々に減衰し、完全に枯渇して干上がる時期が年に数ヶ月もあるなど、危機に瀕していた。そこで小生をはじめ有志の職員、学生らと当プロジェクトを開始し、近隣の地域住民も加わって、かつての里山でもあった「武蔵野の森」の風景の再生をめざして、外来種の除去作業(シユロだけで600本以上伐採)、自生種の萌芽更新、間伐と下草刈り、新次郎池のヘドロ掻き出しや水漏れの補修、野鳥観察と巣箱の設置、散策路の整備と案内看板の設置等の活動を定期的に実施しながら、今日もなお継続している。

このような学内外を巻き込んだ活動の地下が、今回の事業のアイディアの基礎になっている(なお、活動の過程で学生らが提案してくれた「新次郎池魅力化計画」の一部も盛り込まれている)。

加えて、この事業計画の最中、故・向井武文名誉教授のご遺族から大学にご寄付を頂戴した。そこで、有効な使途の検討の結果、老朽化し、歩きづらさが課題となっ





ライトアップされた新次郎池

ていた南門から進一層館方面に上る西側の階段を全面改築することとなった(道幅も広く歩きやすい段差になったこの坂道は「向井坂」と命名されている)。

### 五感を研ぎ澄ます 癒やしの場

最後に、事業のポイントを説明したい。まず、新次郎池の湧水確保については、武蔵野面キャンパスの地面に超音波測定装置を当てて地下20mまでの「水みち」の動きを探るところからはじめ、どこに地下の水溜まりがあり、どのよう

に新次郎池に湧き出ているのかという(地下ルート)を完璧に調べ上げた。そして、現在の湧水ポイントまでの経路で目詰まりを起こしているところなどを横ボーリングで「水通し」良くした。さらに、地下水の湧出ポイントと池底の深さのミスマッチがわかったので、池を浚渫して掘り下げるとともに、護岸から漏水していた穴を塞ぐなどの手当てをした。工夫の数々を書き出す

と切りがないが、ともかくも(昨年は雨が多かった影響もある)、池は満水を維持して、堰からこぼれる清水がせせらぎを満たし、豊かな流れとなつて野川へと注ぎ込む風景が再現した。今後この流れが維持できれば、ホタルの育成も可能になるう。

極めつきは、武蔵野面の5号館の脇から新次郎池に至るウッドデッキ調の散策路の整備と池周りの親水化、見晴らしデッキの整備である。事業後を初めて見る方は、



森の回廊

変化に驚かれるかもしれないが、実際に歩いていただければご納得いただけると思います。これまでに新次郎池周りは歩行できる幅も狭く、濡れて滑ったり、途中からはむき出しの地面で散策路が途切れ、階段の幅も狭く急角度で危険だったが、今回、足元も濡れることなく、かつ安全にアクセスでき、池周りに配したウッドデッキによって、訪れる人はゆつたり座って池を眺めたり、「湧水ポイント」で直接水に触れることもできる。さらに、

池の上にウッドデッキを張って池の形が「アオイ(葵)」(本学の校章のモデル)に見えるように整形したことで、池の印象もぐっと強くなったのではないかと(ぜひ夜にも見てほしい。ライトアップで幻想的にハート形が浮かび上がる)。

また、従来使われず放置されていた建物跡地を、見晴らしデッキに生まれ変わらせた。ここから池の風景や彩り鮮やかなモミジなど植栽を眺望できるだけでなく、円形のベンチとコンセントを設置したことで、15人程度なら深緑を感じながらの「青空ゼミ」も開くことができる。

これを機に、これまで足が向かなかった皆さん、ぜひとも新次郎池を訪れてほしい。日頃の喧噪を離れイヤホンをはずして、ここで静かに座ってみたらどうだろう? 今まで気にも留めなかった野鳥のさえずりや、湧き水の音色、木々を通る風の柔らかなさが、だんだんと感じ取れるはず。

あたらしい新次郎池は、現代人の五感を心地よくくすぐる癒やしの空間になるかもしれない。



# コロナ危機をバネに大転換

〈新たな都市経済・文化のあり方を有識者と議論〉

## セッション1

### コロナ危機を転機に

司会 周牧之

パネリスト 中井 徳太郎

大西 隆

東京経済大学経済学部教授

環境事務次官

日本学術会議元会長、豊橋技術科学大学前学長

今般の新型コロナウイルスパンデミックは、現代に至る都市社会のあり方や産業構造、さらに大学教育のあり方にまで課題を照射し、浮き彫りにしました。私たちは今、大きな問い直しの契機を与えられているともいえます。

そこで東京経済大学では、2020年11月21日(土)に東京経済大学創立120周年記念として「コロナ危機をバネに大転換」特別シンポジウムをオンライン配信という新しい形式で開催いたしました。

セッション1では「コロナ危機を転機に」をテーマに、周牧之経済学部教授が司会を務め、パネリストに環境事務次官の中井徳太郎氏、日本学術会議元会長で豊橋技術科学大学前学長の大西隆氏を迎え行われました。

司会の周氏が冒頭「新型コロナウイ

ルス・パンデミック、情報革命、低炭素社会」の3つのファクターで、大都市の未来、自然とのかかわり、産業のあり方について問題提起しました。

中井氏は異常気象と甚大な自然災害が世界各地で多発していることや、感染症パンデミックなどが人と自然界との住み分けの変化で引き起こされていると認識。脱炭素、循環経済、分散型社会を具現化する「地域循環共生圏」を推進する決意を述べました。

大西氏は日本が直面するもう一つの課題は人口減少だと指摘。「テレワークの活用、情報手段の活用、低炭素社会の中でどう人口維持する構造を作っていくのか、皆が安定的に働くことのできる社会をいかに創るか」と視聴者に呼びかけました。

以下、約90分に及ぶディスカッションの中で語られた5つのテーマです。

#### 01 社会の大変革を押し進める三大ファクター

- ▼ 新型コロナウイルス・パンデミック
- ▼ IT革命そしてDX
- ▼ カーボンニュートラル、脱炭素社会へ

#### 02 大都市の時代 大都市の未来

- ▼ 中国のメガロポリス時代を予測
- ▼ 地域循環共生圏の創造
- ▼ ESGの拡大、脱炭素経営の広がり

#### 03 SATOYAMAイニシアティブから 地域循環共生圏へ

- ▼ 里山の豊かな生態多様性
- ▼ 自然集落の消滅
- ▼ 自然エネルギーの活用

#### 04 里山の恩恵 交差免疫

- ▼ 稲作的里山がもたらす交差免疫
- ▼ 地球環境容量の限界とSDGs
- ▼ 地域も人間も同じ生命体

#### 05 自然への畏敬、知性への敬意を取り戻す

- ▼ 権力の傲慢・ウルシチョフと現代美術
- ▼ 日本発の脱炭素化・SDGs構想
- ▼ 丁寧な説明で社会をリード

セッション1  
「コロナ危機を転機に」



<https://youtu.be/e-23LEfnlkg>



創立120周年記念事業

# 図書館の取り組み

- ・講演会「東京経済大学図書館の歴史と未来」
- ・貴重書コレクション「桜井義之文庫『錦絵』」特別展示
- ・貴重書デジタルアーカイブのリニューアル

図書館長 米山高生

東京経済大学図書館では、本学創立120周年記念事業の一環として講演会と貴重コレクションの展示を開催した。講演会は、COVID-19感染防止のためオンライン・ライブ配信とした。講演会は11月7日(土)の午後1時からスタートし、進行は本学名誉教授の橋谷弘先生で、約2時間行なわれた。プログラムは、戸邊秀明(全学共通教育センター教授)「東京経済大学図書館の歴史―120年の歩みとともに―」、新井勝紘(元専修大学教授)「半世紀前の体験が私の原点―五日市憲法・色川ゼミ・図書館―」、村上勝彦(東京経済大学名誉教授)「本学所蔵の貴重和書コレクション」について―三橋、桜井、四方の3文庫―である。

このような規模の講演会を一般向けにライブ配信する試みは始めてだったこともあり緊張したが、事務方の用意周到の準備のおかげで無事終了することができた。

参加申込者は106名であった。申込者の4割強が本学卒

## 本学最初の図書館

- \* 創立10周年記念事業として建設
- \* レンガ石造、3階建
- 1階：書庫
- 2階：生徒読書室
- 3階：教職員読書室



## 東京経済大学図書館の歴史 ～120年の歩みとともに～

戸邊秀明  
(全学共通教育センター、120年史専門委員)



戸邊秀明氏



新井勝紘氏



村上勝彦氏





業生だったことは心強い限りである。他方3割近くが本学関係者以外の方だった。さらに北海道から山口県まで全国幅広い地域から申込みをいただいた。従来の会場形式と比較して、より幅広い皆様に講演会を視聴していただいたことがうかがわれる。



貴重書コレクション展示として、桜井義之文庫の錦絵全132点のうち36点を10月22日(木)から11月19日(木)の期間で図書館1階にて特別公開した。これは申込み不要かつ入場無料で行われたが、時節柄、キャンパスへの入構の際に検温と消毒のうえ、学外者には氏名と住所

を記入してもらい、マスク着用で鑑賞していただいた。

以上の二つの事業の他、貴重書デジタルアーカイブのリニューアル等の事業もあわせて行われているのでここで紹介したい。2019年度において「三橋文庫目録」をデジタル化し機関リポジトリで公開した。また今年度は「桜井義之文庫」に所収されている朝鮮関係錦絵のアーカイブがリニューアルされて11月6日に一般公開された。これにより従来の機関リポジトリで公開したものより、格段と鮮明な画像を提供できることになった。

さらに橋谷弘名誉教授のご尽力により詳細なメタデータ(書誌データ)が整備され、画像を鑑賞するだけでなく、歴史資料としての活用に関する利便性が格段に高まった。さらに続いて、「桜井義之文庫」および「四方博朝鮮文庫」に所収されている写真集や絵葉書などのビジュアル資料のデジタルアーカイブも2021年3月公開をめざして進められている。これら一連の企画は、貴重

書等を死蔵することなく、広く一般に活用してもらうという図書館の重要な社会的使命を果たすものであると自負している。



(スマートフォン用画面)  
※ PC 画面の表示と異なります。

[https://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G0000719tkudb](https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000719tkudb) (PC 画面)



# 2020年を起点とした

## 「10年後を見据えた新構想」の策定について

副学長 竹内 秀一

AI時代を迎え産業構造・就業構造の変化が進みつつあり、大学においてもこうした社会の変化への対応が強く求められています。大学を取り巻く環境が大きく変化する中で、岡本英男学長から「質の高い個性ある大学」としての社会的評価を確立するためには、『東京経済大学とはどのような大学なのか』という原点を確認し、『アカデミズムに裏打ちされた実学教育』を実践する大学として、今後目指すべき大学像、目指すべき学生像を提示し、その実現に向けて全学的に取り組むことが必要」との方向性が示されました。

加えて、「建学の理念である『進一層』の精神でもってこの大きな波を乗り越え、中規模大学としての個性をこれまでに以上に明確にし、全国の有力大学としての地位、そして東京・多摩を代表する大学としての地位を確立したいと考えているため、本学の2020年以降の中長期的な将来構想についてご検討いただき、できれば広範で斬新な構

想、アイデアを提起してもらい、提言としてまとめていただきたい」という内容で、学長が新構想策定委員会（委員長の麻生博之教授を含む教員11名と職員5名から構成、以下「策定委員会」）に対して諮問をされました。

策定委員会は、2019年5月15日付の上記の諮問について議論を重ね、2020年4月8日に学長宛てに新構想策定委員会答申（以下「答申」）を提出しました。本答申においては、「東京経済大学とはどんな大学なのか」という原点を確認し、「アカデミズムに裏打ちされた実学教育」を実践する大学として、その最良の部分を再認識することから始め、これに加えて社会的ニーズの質的転換への対応も念頭に置き、新構想は、教育、研究、社会貢献、国際連携等の教学面を中心とした各領域において、目指す大学像、目指す学生像を提示し、その実現に向けて全学的に取り組むべき提言を行っています。

「進一層」「責任と信用」という現在明示的に掲げられている「建学の理念」と併せ、「豊かで公正な社会」と「多様性を尊重する世界」への寄与、「開かれた批判的精神」と「自主自立の精神」の重視、「堅実なる品性」と「良識（コンセンサス）」の涵養、といった諸理念を再認識したうえで、ゼミを主軸とした能動的・自主的な学びに力点を置くカリキュラムへの転換、「文理融合型教育」の導入、英語教育等の強化・充実、学術交流・研究成果発信の場の新設、地域連携・社会貢献の推進など数多くの改革案がまとめられています。

しかしながら、学長が「本答申には実際にすぐに着手できる提言、時間をかけて検討する提言等が混在している」と判断されたため、2020年7月2日に新構想具現化検討委員会（委員長の私を含む教員11名と職員2名から構成、以下「具現化委員会」）が新たに設置されました。学長から「本答申で提起された改革案について実現可

そこで、具現化委員会の下に4つの作業部会「ゼミ・カリキュラム改革作業部会」「多文化共生作業部会」「データサイエンス教育作業部会」「大学院教学改革検討作業部会」を設置し、具体案の検討を始めました。これら4項目以外にも研究、国際化、地域連携、社会貢献の各分野において有益な提案がされているため、これらについても具現化委員会で議論を進め、実現可能な具体案として整理する予定です。

なお、2021年度から始まる本学の第二次中期計画については、策定委員会の答申で提言された内容が、具現化委員会において実現可能な改革案の形にまとめられれば、2020年を起点とした「10年後を見据えた新構想」として、それを組み込むことが検討されています。



# コミュニケーション学部

## 2学科体制構想に関して（設置構想中）

コミュニケーション学部長 山田晴通

現在コミュニケーション学部では、現行のコミュニケーション学部コミュニケーション学科の1学部1学科体制から、2022年4月の「メディア社会科学科」（仮称）と「国際コミュニケーション学科」（仮称）の1学部2学科体制へと向けた具体的な取り組みを進めています。

コミュニケーション学部は、1995年4月に国内で初めて「コミュニケーション」を冠した学部として開設され、「コミュニケーション学」「メディア学」の領域で四半世紀にわたってその研究力、教育力を高く評価されてきました。この間、コミュニケーションを取り巻く環境は大きく変化しています。従来の新聞やテレビを中心としたマス・メディアから、インターネットに接続可能なモバイル・メディアへとコミュニケーション

シヨンの中心は移行しました。同時にこのような変化は、人間、商品、情報の国境を越えた移動を促進する社会基盤ともなりました。つまり、私たちが現在直面する社会のグローバル化は、メディア・テクノロジーの発展と不可分のかたちで進行してきたのです。

私たちも、このような社会状況に対応してカリキュラムを拡充してきました。2015年度にはコミュニケーション学科を3コース制にし、「メディア」「企業」に加えて「グローバル」コースを設置しています。グローバルコースは安定した学生の希望を集め、現在では本学の「学修時間・教育の成果等に関する調査」（2018年度）等も示すように、コミュニケーション学部の学生は高い海外志向を持っています。このような状況をふまえ、グローバルコースを発展

的に改組した学科を設置することとで、さらなる学生の希望に応えたいと考えました。

本学部の伝統でもある「メディア・コミュニケーション」の学びについては、コミュニケーション学科を名称変更予定の「メディア社会科学科」（仮称）が今後も担う予定です。一方で、今回新設を構想中の「国際コミュニケーション学科」（仮称）では、グローバル化が進む現代社会を理解するうえで重要な「移動／モビリティ」という観点からカリキュラムを編成し、海外を中心とした異文化体験への参加を必修とする予定です（なお内外の情勢もふまえ、国内やオンライン等を通じた体験機会も設置予定）。これらを通じて、基礎的な英語コミュニケーション能力と柔軟な異文化対応力を備えた人材の育成を目指します。

皮肉にも2020年は新型コロナウイルスの影響でマスクが不足したり、旅行や仕事での海外への行き来が大幅に制限されたりするなど、国境を越えたモノやヒトの移動が止まることで、いかに私たちの日常生活が世界とつながっているのかを逆に痛感させられる一年でした。しかしながら、それは同時に長い目で見れば今後を着実にグローバルな移動は回復することを意味します。そしてメディアが世界をつなぐ必須の基盤であることも、誰もがまた改めて確認したところ です。このような社会環境に対応した教学体制づくりに、大学のご理解もいただき学部一丸となつて取り組んでおりますので、引き続き温かいご支援をいただけますようお願い申し上げます。



## 修学支援特別奨学寄付金

修学支援特別奨学寄付金につきまして、二〇二〇年六月二日より募集を開始しましたところ、学内外の皆様からのご支援ご協力により、二〇二〇年九月三十日までに、四八五件、二三〇一万六二五七円のご寄付を頂戴いたしました。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

ご厚志は、新型コロナウイルス感染症拡大をはじめとする学生の修学支援のために有効に活用させていただきます。

ここに、二〇二〇年六月二日から九月三十日までに受け付けました寄付者の御芳名を掲載させていただきます（インターネット寄付は九月十五日申込分までとなります）。

引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

二〇二一年一月

学校法人 東京経済大学 理事長 菅原 寛貴  
東京経済大学 学長 岡本 英男

### 修学支援特別奨学寄付金応募状況

(2020年6月2日～2020年9月30日申込分)\*

| 区分       | 件数  | 金額 (円)     |
|----------|-----|------------|
| 卒業生      | 376 | 9,470,147  |
| 卒業生団体    | 1   | 100,000    |
| 在学生父母    | 32  | 553,000    |
| 一般       | 8   | 220,010    |
| 法人役員・教職員 | 68  | 12,673,000 |
| 合計       | 485 | 23,016,157 |

※インターネット寄付は9月15日申込分まで。

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。







個人情報保護のため  
WEB掲載は控えさせて  
いただきます。

## 「東京経済大学修学支援特別奨学寄付金」

募金目的：新型コロナウイルスをはじめとする感染症、自然災害、経済危機等の様々な事象によって生活に困窮する学生の修学を広く支援することを目的とします。

### 払い込み方法

#### (1) 個人の場合

##### 1. インターネットからのお申込み

次の寄付申込み専用アドレスよりお申込みをお願い申し上げます。

<https://fundexapp.jp/tku/entry.php>

・クレジットカード決済となります。手数料はかかりません。

・寄付目的「修学支援特別奨学寄付金」を選択してください。

右のQRコードから、  
ぜひお申込みをお願い  
します。



##### 2. ゆうちょ銀行（郵便局）からのお申込み

専用の「払込取扱票」に金額等をご記入の上、ゆうちょ銀行（郵便局）にてお振込みをお願い申し上げます。

専用の「払込取扱票」がお手元にならない場合は、経理課までお問い合わせください。

#### (2) 法人の場合

経理課寄付金担当まで連絡いただき、経理課から「寄付申込書（日本私立学校振興・共済事業団用）」および「寄付申込書（本学宛）」を送付いたしますので、必要事項をご記入の上、ご返送願います。

免税措置：確定申告を行うことで税制上の優遇措置を受けることができます。詳細は大学ホームページ (<https://www.tku.ac.jp/tku/kifu/menzei.html>) をご覧いただくか、創立120周年記念事業募金趣意書の寄付金免税措置のページをご参照ください。

お問い合わせ先 経理課

TEL: 042-328-7737 FAX: 042-328-7770 E-mail: keiri@s.tku.ac.jp

### 東京経済大学教育振興資金寄付御芳名

「東京経済大学教育振興資金」の募集にあたり、保護者の皆様より多くのご協力をいただきました。ここに「寄付」を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。ご厚志は、教育の充実や奨学金制度の拡充などのために有効に活用させていただきます。今後とも、本学発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇二一年一月

学校法人 東京経済大学 理事長

東京経済大学 学長

菅原 寛貴  
岡本 英男

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。

### 東京経済大学にご寄付いただいた方々の御芳名

皆様より多くのご寄付をいただきました。ここに「寄付」を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。ご厚志は、東京経済大学の教育および学生支援のより一層の充実のために有効に活用させていただきます。

今後とも、本学発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇二一年一月

学校法人 東京経済大学 理事長

東京経済大学 学長

菅原 寛貴  
岡本 英男

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。



## 創立120周年記念事業募金応募状況

(2017年2月1日～2020年9月30日申込分)

|            | 件数    | 金額 (円)      |
|------------|-------|-------------|
| 一般法人/卒業生法人 | 130   | 207,193,000 |
| 卒業生        | 3,357 | 211,029,615 |
| 卒業生団体      | 134   | 11,974,097  |
| 在学生父母      | 212   | 4,870,000   |
| 一般         | 54    | 12,323,600  |
| 法人役員/教職員   | 167   | 69,968,000  |
| 合計         | 4,054 | 517,358,312 |
| 目標金額       |       | 20億円        |

創立120周年記念事業募金につきましては、学内外の皆様からのご支援ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

ここに、2020年1月1日から2月29日までに受け付けました寄付者の御芳名を掲載させていただきました。〔 〕内は本事業開始から2020年2月29日までの累計額です。

引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。  
2021年1月

学校法人 東京経済大学 理事長 菅原 寛貴  
東京経済大学 学長 岡本 英男

東京経済大学  
創立一二〇周年  
記念事業募金



個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。



ご寄付を追加された場合は、累計額により再度掲載いたします。

誌面の都合上、120周年スポーツ・文化振興募金、および2020年3月1日以降のご寄付につきましては、別途、芳名録に掲載させていただきます。

今後とも、皆様のお力添えをいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

校友センター 創立120周年記念事業募金室

TEL: 042-328-6100 FAX: 042-328-8028 Email: bokin@s.tku.ac.jp



## 陸上競技部 大川歩夢選手が箱根駅伝に出場

関東学生連合チームで復路の6区を見事に走破

2021年1月2日(土)～3日(日)に開催された第97回東京箱根間往復大学駅伝競走で、東京経済大学陸上競技部の大川歩夢さん(経済2年)が関東学生連合チームの選手として山下りの6区に出場しました。本学の選手が箱根路を走るのは2016年の吉村匠さん(2016経営卒)以来2度目です。

当日の早朝は小雪が舞う時間帯もありましたが、スタート時には青空も垣間見え体感温度も低くなく無風の状態で絶好の駅伝日和でした。

大川選手は、2020年10月17日(土)に陸上自衛隊立川駐屯地で行われた箱根駅伝予選会を1時間03分09秒で走破。今回の箱根6区のタイムは1時間00分04秒で区間14位相当でした。1時間切りを目標としていた大川選手は、ゴール後に「攻めることも競うこともできずただただ悔しい。レベルの違いを感じた。やり残したことがあるので箱根をもう1度走りたい」とコメントしました。

また陸上競技部の上阪哲也総監督は「箱根駅伝に大川が出場することで見えた課題を部に持ち帰り、今度はチームで出場を目指したい」と、次の目標に向かって決意を語りました。

応援いただきました皆様、ありがとうございました。



写真左から  
陸上競技部部長・北山聡准教授 / 大川選手 / 上阪総監督



大川歩夢選手。シューズは陸上競技部の同志からのプレゼント。

## 金鉉玉ゼミがアカウンティングコンペティションで最優秀賞を獲得

2020年12月13日(日)にZoomを用いて行われた「アカウンティングコンペティション」にて、経営学部金鉉玉ゼミナールの「決算期変更に関する研究」について発表を行ったチームが、事例理論研究分野で最優秀賞と学生最多得点賞を獲得しました。アカウンティングコンペティションは、今年で5回目の開催で、今年度は20大学30ゼミナール54チームが実践研究分野、実証研究分野、事例理論研究分野の3分野で発表を行いました。

## 石川雅也ゼミが日銀グランプリで敢闘賞を受賞

2020年12月19日(土)、日本銀行が主催する「第16回 日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」の決勝大会が日本銀行で開催されました。予選から勝ち上がった5チームが出場し、経済学部の石川雅也ゼミナールのチームは「あつまれ六次産業化ホールディングス～若者の就農と定着に向けた、現状調査と持株会社の提案～」というタイトルでプレゼンを行い、敢闘賞を受賞しました。

## 2020年度9月卒業式挙行 ～89名がそれぞれの道へ～

2020年9月15日(火)、2020年度9月卒業式を行いました。今年度は学部・大学院合わせて89名がそれぞれの道へ進みました。

新型コロナウイルス感染症予防の観点から例年の学位記授与式を実施せず、学部・研究科ごとに大教室に分かれ、学部長・研究科委員長より学位記授与のみ実施しました。

第1学期が遠隔授業となっていたことや、大学までの通学による感染リスクを懸念したためか当日の出席者はわずかでしたが、出席した経営学部卒業生の一人は、「このような状況の中であっても、工夫した形で卒業式を実施してくれて感謝している。学生生活の最後にキャンパスに来ることができてよかった」と話していました。



## 第121回葵祭をオンライン開催しました

東京経済大学の大学祭である葵祭(あおいさい)が、2020年10月31日(土)～11月1日(日)の2日間オンラインにて開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、例年のようなキャンパス内での開催は難しく、実行委員の学生が検討を重ねオンラインでの開催に踏み切りました。

開催主体である学生団体の葵祭実行委員会webサイトにて、新入生向けの交流イベントやサークル・ゼミ紹介、投票制のコーディネートバトル、お笑い芸人ライブ等が実施されました。準備期間の短い中、少しでも地域の方や在学生、本学に興味を持っていただいている方々に向けて情報発信ができればという思いの詰まった大学祭となりました。





## 名誉教授の称号授与式、新たに4名に名称を贈呈

2020年9月29日(火)、名誉教授の称号授与式を学長室で行い、岡本英男学長より出席された3名の先生方一人ひとりに、称号記(しょうごうき)が手渡されました。今年度名誉教授の称号を贈られたのは、次の4名の先生方で、長年にわたり本学に貢献された実績を称え名称が贈呈されました。例年は5月に実施される当授与式ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、9月の実施となりました。



写真左から  
余部先生 / 岡本学長 / 小島先生 / 陣内先生

### あまべ ふくぞう ・余部 福三 名誉教授

1987年から33年間、授業では外国史などを担当され、全学共通教育センター長をはじめとする要職を歴任されました。

### こじま ゆたか ・小島 寛 名誉教授

1979年から41年間、授業では経済発展の理論などを担当され、経済学研究科委員長を務められました。

### じんない よしあき ・陣内 良昭 名誉教授

1984年から36年間、授業では財務会計論などを担当され、経営学部長、副学長をはじめとする要職を歴任され、会計プロフェッショナルプログラムの運営にもご尽力されました。

### たけわき まこと ・武脇 誠 名誉教授

1996年から23年間、授業では管理会計論などを担当され、経営学部長のほか、会計プロフェッショナルプログラム座長としてご尽力されました。

## TKU古本募金サイトがリニューアルしました!

コロナ禍の影響により、古本募金制度に下記の変更があります。

### ■ ご寄付いただける書籍が次のとおり変更されました。

- ・ISBN(国際標準図書番号)が付与された2010年以降発行の書籍
- ・ISBN(国際標準図書番号)が付与された2010年以前発行の書籍で、かつ古本募金提携業者の「おためし査定」サイトにて「買取価格」に値段がついているもの

### ■ 電話申込代行

制度変更により、提携業者の電話受付は廃止され、**WEB申込のみ**となりました。  
WEB申込のご利用が難しい方には、**本学図書館が電話による代行申込を受け付けます。**

### ■ 「書籍寄付受領書」の送付方法が郵送からメール送信に変更されました。

2017年12月に始動しました「TKU古本募金」プロジェクトは、2020年12月31日現在、272件・900,149円(累計)のご寄付をいただきました。

みなさまのご厚情に深く  
感謝申し上げます。

※コロナ禍のため2020年5月~10月は申込受付を停止しておりました。



古本募金について

詳しい情報は上記の  
QRコードをご覧ください

### TKU 古本募金に関するお問い合わせ

東京経済大学 図書館

TEL : 042-328-7764 E-mail : library@s.tku.ac.jp

### 寄付・免税措置に関するお問い合わせ

東京経済大学 経理課

TEL : 042-328-7737 E-mail : keiri@s.tku.ac.jp

### 創立120周年記念事業募金寄付者の顕彰 御芳名を刻銘し、末永く顕彰させていただきます。

- 個人の方・・・1万円以上
- 法人の方・・・100万円以上
- 団体の方・・・30万円以上

(ご希望により匿名扱いも承ります)

創立120周年記念事業募金受付は、2021年3月末日までです。皆様からの一層のご協力をお願いいたします。



写真は第一層館改修工事寄付者御芳名板です。  
このような芳名板を制作予定です。

### ● 東京経済大学 大学報 第53巻第2号(新春号) アンケート



アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品(東経大グッズ)をプレゼントさせていただきます。

上のQRコードから、  
ぜひ回答をお願いします。

大学報の発送停止・発送先の変更等をご希望の方は、  
校友センターへご連絡ください。

【連絡先】 東京経済大学 校友センター

【TEL】 042-328-6100 【FAX】 042-328-8029 【E-mail】 kouyu@s.tku.ac.jp